

殿山第二小だより

令和 5年11月 10日 第19号

枚方市立殿山第二小学校

TEL:050-7102-9044

発行責任者 校長 山本 容子

〇〇の秋を迎えて
本物に出会うチャンス!

さて、『百聞は一見に如かず』(広辞苑：何度も聞くより、一度実際に自分の目で見る方がまさる。)ということわざがあります。

字義通りに捉えるだけではなく、学びを深めていくため、物事の道理を理解していくためには、話をよくきき、自分なりにイメージをふくらませながら、実際に目にしてみる・実際に触れてみる・実際に音や声を聴いてみる。すると、「思っていたより〇〇だな。」「考えていたことは、こういうことだったんだ。」など、自分の考えていたことがより明確になり、興味関心がより高まる結果となるはずです。

このような前向きな気持ちが本人の主体性、“やる気”につながってくるのだと思います。

子どもたち一人ひとりが持っている“やる気”を引き出し、継続させていくことが、本当の“学び力”の向上・生きる力になると思います。

“やらされ感”を“やる気感”にどんどん変身していけるようにしたいと考えていますが、そう願う私たち教職員も心“やる気”モードに切り替えることが大切なことと思っています。

〇〇の秋を、様々なやる気が育つ秋になるように子どもたちに温かい励ましの声をかけていきたいと思っています。



今年度も地域の方々、春先から“菊づくり”に勤しんでくださり、大輪の菊の花が咲きだしています。これからが見ごろになります。



『〇〇の秋』の〇〇には、「勉学の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」「読書の秋」「行楽の秋」「芸術の秋」などなど、いろいろな言葉を連想することができます。

先日は、授業参観・懇談会と多くの保護者の皆様にお子様の学習の様子をご覧いただき「勉学の秋」を感じていただくことができていましたら幸いに思います。

読書の秋について

「読書の秋」という表現の由来は、中国・唐の時代の文章家・詩人「韓愈」(西暦768年～824年)が自身の息子のために、学問の大切さを詠んだ詩の中に『燈火親しむべし：意味は「秋の夜は涼しさが気持ちよく、あかりで読書するにはとても適している」という一節があり、これが、今日の「読書の秋」の由来になっているそうです。

親が息子に「学問は、読書が一番であり、息子よ！読書をしなさい！」という親心を込めてつくられた詩ということです。

現在は、西暦2023年。ずいぶん昔から、「読書の秋」は人々に親しまれてきた“言葉”ということが想像できます。

殿山第二小学校の図書室も「読書の秋」にふさわしく、図書委員会の子どもたちが、アイデアを出し合いながら魅力あふれる図書室運営をすすめてくれています。

11月8日(水)午前中は、芸術鑑賞日でした。パーカッショングループ フラワービートの皆さんによる、公演名：観て、聴いて、体験する!! 音楽を五感で楽しもう!!と演奏会がありました。子どもたちもノリノリで、様々な音色を楽しみ、味わいました。